

日本及び欧米諸国の音楽大学における女性作曲家作品認知状況 アンケート調査に基づく分析と傾向

川 嶋 ひろ子

A Study Concerning Acceptance of Musical Works by Female Composers at Colleges
and Universities in Japan, Europe and the United States
An analysis and perspective based on questionnaire

KAWASHIMA Hiroko

Abstract

With the progress in the research on women's studies in Europe and the United States since the 1970s, the study concerning gender has been carried out in earnest in various fields. In the musical domain, works by female composers - left in obscurity for so long - have now been spotlighted. In Japan, too, it is quite rare that their musical works are performed in public concerts today. Further, even their names have not been taken up in music textbooks in various schools here. What is the real situation of the acceptance and understanding in terms of works by composers at colleges and universities - the higher educational institutions of musicology? This paper is the result of the questionnaire I have conducted at 230 outstanding universities in Japan, Europe and the United States.

The questionnaire asked if there were cases in which musical works by female composers had been taken up in the past five years, and asked the names of the composers and the forms of performance if any. This paper is an analysis of the current situation and gives a perspective on the basis of the research and the questionnaire.

Keywords: Female composers, History of Western music, University of musicology, Questionnaire

[要約]

1970年以降、欧米を中心に女性学研究が進められ、様々な分野においてジェンダー研究が盛んに行われている。クラシック音楽の領域においても、今まで埋もれた状態であった女性作曲家の作品が注目をされはじめた。しかし日本においては、現在でもなお彼女達の作品が公開の演奏会のプログラムとして取り上げられることはごく稀であり、学校教育における音楽教科書の中においては名前すら取り上げられていない。音楽の高等専門教育機関である音楽大学での女性作曲家認知状況がいかなるものか、日本および欧米の主な音楽大学230校にアンケート調査を試みた。

このアンケートは過去5年の間に女性作曲家作品が取り上げられたことがあるか、ある場合は作曲家名と演奏形態を問うものである。本研究紀要はその調査結果を基に現状の分析を行い、傾向を論じる。

キーワード：女性作曲家、西洋音楽史、音楽大学、アンケート

はじめに

私は長年1つの疑問を抱いてきた。日本において、音楽を学ぶ者の大半は女性である。

世界的に見ても、バッハの昔から宮廷や良家の子女は楽器演奏を教養として学んできている。いわば音楽は、女性と強い関りをもって発展して来ているとも言える。

ではなぜ西洋音楽史において女性の名前が登場しないのか。これには当然、社会的背景が絡んでいる。20世紀を迎えるまで、女性はあらゆる分野で影の存在であったと言える。女性が職業音楽家として認められ、その才能を発揮し、活動出来るようになるまでの長い歴史の道のりを、現代の我々をもっと認識すべきではないだろうか。

1987年にアメリカで刊行されたアーロン・コーエン編の「国際女性作曲家百科事典」には世界75カ国、紀元前2700年から1980年までの範囲において、約6200名の女性作曲家が収録されている。この中の何名を私達は知っているであろうか。我々が今まで女性作曲家の存在をあまり認識していなかった、即ち「女性の作曲家っていたの？」という程度の認識の仕方を、一般の人達の大多数がしているという事実をまず認識することが第1歩である。ドイツでは1996年にクララ・シューマンの没後100年を記念し、また、1997年にはファニー・メンデルスゾーンの没後150年を記念して、演奏会やレクチャー、展示会をはじめ、楽譜出版、CDリリースなどが大々的に行われ、彼女達の存在がクローズアップされた。欧米ではこの数年の間にずいぶん状況が変わり、特にドイツ・アメリカでは女性作曲家の名前や作品が一般に知られてきているという。本研究は女性作曲家についての認識を促すとともに、世界の音楽大学の中で着実に少しずつ、女性作曲家作品を認知する動きが出てきているということを知らしめる目的を有するものである。

1. 女性作曲家の社会的背景の変遷

音楽文化の発展、音楽教育の変遷、そして社会における男女差別の歴史。女性作曲家が長い間西洋音楽史の裏に埋もれていた背景には、様々な問題が絡んでいることは誰もが想像のつくところである。それぞれの時代における社会的背景を、エヴァ・リーガー著「音楽史の中の女たち」⁽¹⁾の中からいくつかあげてみる。

1.1 12世紀まで

中世において、女子修道院は大抵かなり身分の高い家柄の娘を教育する機関となっていて、9世紀から10世紀にかけては、かなり高度な学問を研究している女子修道院もあった。しかし女性はキリスト教会の司祭には決してなれず、旅に出たり、遊学することも禁止されて

おり、音楽活動をするにはさまざまな拘束を受けていた。修道女ヒルデガルト・フォン・ピンゲン（1098-1178）は応答聖歌、賛歌などを数多く作曲し、現在注目されているが、無名のままに終わった女性作曲家が大勢いたことは察するに余りある。

1.2 12世紀から15世紀にかけて

12世紀から13世紀にかけて、宮廷風のきらびやかな風潮が広まり、貴族の娘たちや富裕な市民の娘たちは歌や器楽演奏の教育を施された。当時ドイツでは司教座聖堂付属学校や修道院付属学校と並んで女学校を含む一連の私立学校が設立され、男女が平等に教育を受けていた。14世紀のイタリアでは一部の女性たちが高度な教育を受け、イタリアの諸侯の一門に連なる女性たちは、芸術活動に大変深く関わっていた。しかしその後、男女の教育の差別化が顕著となっていく。

1.3 16世紀から18世紀にかけて

この時代には、男女間の差別が音楽教育上の施策にも支配的な役割を果たしていた。教会に付属した学校は、学問と芸術の権威者であり、この知識を聖職者や学識のある男性の後継者に伝えていった。男子学校では音楽の基礎から理論までを習得させ、歌の観賞に始まって高水準の歌唱法まで教育していたのにひきかえ、女子の音楽教育は水準が低く、読譜法を学ぶのが稀なほうであった。音楽家の社会的地位について、17世紀には教会や都市の劇場に雇われる、作曲家や演奏家を兼ねた職業的音楽家という職種が形成され始めた。17世紀にはあらゆる社会階層の女性が力を失っており、宮廷では、男性の職業音楽家がポストを独占してしまっていたし、ブルジョアジーの間では女性にたいする学校教育や芸術教育は無用の長物とみなされていた。18世紀の半ば、ドイツの諸都市では音楽協会が組織され、利益を目的とした演奏会が普及し、演奏活動の商業化は女性を一層音楽活動から遠ざけた。女性はただ「家庭音楽会」の場で、その才能を披露するのが精一杯であった。

1.4 19世紀

1841年のある学校の入学試験要項には、男女を差別する動向がはっきりと表れている。女子にたいしては、旋律的な装飾音、強弱法、そして独奏や重奏、和声学と前奏曲程度の技能しか要求されていないのに対し、男性の受験者は多声曲に取り組み、コラールのメロディーを対位法で編曲することが要求された。

次の表は1817年から1870年の間のウィーン音楽学校の専攻楽器別学生数一覧である。

専攻楽器別学生数一覧 (未登録者17)

	声楽	ピアノ	バイオリン	チェロ	コントラバス	管楽器
男子学生 167	10	10	54	20	3	53
女子学生 102	94	8	-	-	-	-

オーケストラ楽器は、将来、職業としてオーケストラに所属しようとする者が学んだので、女性は問題外だった。しかし、合唱団では女性の数が急増していった。

19世紀末になると、学校における女子教育の貧弱さが指摘され、女子にも相応の職業教育を与えるべきだという考え方が広まってきた。しかし19世紀末まで、女性は大学構内への立ち入りを禁止されていたばかりか、音楽図書館の利用さえ認められていず、女性が作曲

法を学ぶのは個人的指導によるしかなかったようである。

1.5 20世紀の状況

20世紀に入り、欧米でもまた日本においても男女等しく音楽高等専門教育を受けるに至った。1879年、日本では東京音楽学校（現在の東京芸術大学音楽学部の前身）が創設され、多くの女性作曲家を輩出している。しかし、女性作曲家が活動していく上でのハンディは否めない。女性の作品には交響曲など規模の大きいものは難しいという見方がされがちであるが、その背景には上演する段階での経済力や、室内楽団やオーケストラの協力と理解そして正当な評価を得るという点での問題が潜んでいるという考え方もあるようだ。そのため女性作曲家の作品には歌曲やピアノ曲や室内楽など、上演しやすい演奏形態のものが多く見られるという。

2. アンケート調査

作品や作曲家が認知されるには、まず演奏され、情報として多くの人達の耳に入り、素晴らしい作品であることを認められる必要がある。その第1段階である「演奏する」ことがどの程度行われているか。また、女性作曲家についての情報がどの程度与えられているか。音楽を専門的に学び、将来演奏家として、また教育者として一般の人々や子供達に音楽を伝える役割を持つ人材を育てる音楽大学の現状を知るため、アンケート調査を行った⁽²⁾。調査内容は次のようなものである。

2.1 アンケート調査内容

- ・過去おおよそ5年間についてお答えください。

- 1) 学内の [試験] において女性作曲家の作品が演奏されたことがありますか。
ある場合は、演奏された女性作曲家の名前と演奏形態を書いて下さい。
- 2) 学内の [学生による演奏会] において女性作曲家の作品が演奏されたことがありますか。
ある場合は、演奏された女性作曲家の名前と演奏形態を書いて下さい。
- 3) 学内の [先生による演奏会] において女性作曲家の作品が演奏されたことがありますか。
ある場合は、演奏された女性作曲家の名前と演奏形態を書いて下さい。
- 4) 学外の [公開演奏会] において女性作曲家の作品を演奏することがありますか。
・よく演奏する ・時々演奏する ・たまに演奏する ・まったく演奏しない
演奏される場合、演奏された女性作曲家の名前と演奏形態を書いて下さい。
- 5) [西洋音楽史のテキスト] の中に、女性作曲家の名前が書かれていますか。
書かれている場合、書かれている女性作曲家の名前を書いて下さい。

2.2 アンケート調査結果

2.2.1 アンケートの形式に従い記入された回答。

「表記について」

- ・名前の表記は 名(小文字)姓(大文字)の順で記載。
- ・同一国内で、同一人物名が複数回記入された場合は1回のみ記載。
- ・音楽大学作曲専攻の学生名が記入されている大学が5箇所あったが、今回のアンケート結果には紙面の関係上、記載していない。
- ・演奏形態についての記入の無い回答も含む。

1) 学内の [試験] において、女性作曲家の作品が演奏されたことがありますか。

スイス：1校

Alma MAHLER (声楽)

Grażyna BACEWICZ (室内楽)

Clara SCHUMANN (声楽)

Sofia GUBAYDULINA (室内楽)

フランス：1校

Betsy JOLAS

Graciane FINZI

Clara SCHUMANN

ドイツ：3校

Adriana HÖLSKY (室内楽、ピアノ)

Grażyna BACEWICZ (ビオラ)

Annea LOCKWOOD (打楽器)

Henriette RENIÉ (ハープ)

Cécile CHAMINADE (フルート、ピアノ) Irina EMELIANTSEVA (ピアノ)

Christine BOLL (アコーディオン)

Isabel MUNDRY (室内楽)

Clara SCHUMANN (ピアノ、声楽)

Kaija SAARIAHO (室内楽、声楽)

Claslotte SEITHES (室内楽)

安倍 圭子 (マリンバ)

Edith CANAT DE CHIZY (ヴァイオリン) Olga NEUWIRTH (サクソ)

Elena MENDOZA-LÓPEZ (室内楽)

Rachel GALINNE (室内楽)

Eun-Hwa CHO (合唱付き室内楽、ピアノ、Rebecca CLARKE (ヴァイオリン、室内楽)

アコーディオン、管楽器、打楽器) Sinem ALTAN (ハープ)

Fanny MENDELSSOHN HENSEL (声楽)

Sofia GUBAYDULINA (ピアノ、室内楽、ア

Franghiz ALI-ZADEH (室内楽)

コーディオン、チェロ、トランペット)

Germaine TAILLEFERRE (ハープ)

その他

イギリス：1校

Barbara STROZZI (声楽)

Elizabeth MACONCHY (吹奏楽)

Elizabeth LUTYENS (クラリネット)

Francesca CACCINI (声楽)

アメリカ：4校

Adaline SHEPHERD	Libby LARSEN
Amy BEACH (声楽、ヴァイオリン)	Lori LAITMAN
Cécile CHAMINADE (ピアノ)	Ludith Lang ZAINMONT (フルート)
Clara SCHUMANN (ピアノ、声楽)	May AUFDERHEIDE
Fanny MENDELSSOHN HENSEL	Pamela DECKER
Irene GIBLIN	Pauline GARCIA VIARDOT
Laurel LITTRELL	Ruth CRAWFORD SEEGER (フルート)
	その他

日本：8校

Alma MAHLER (声楽)	Ida GOTKOVSKI (フルート、サクソ)
片山 あおい (パーカッション)	安倍 圭子 (マリンバ)
Cécile CHAMINADE (フルート)	木下 牧子 (声楽)
Clara SCHUMANN (ピアノ、声楽)	大田 桜子 (パーカッション)
Fanny MENDELSSOHN HENSEL	Sofia GUBAYDULINA (フルート)
(ピアノ、声楽)	Suzanne GIRAUD (パーカッション)
Augusta HOLMES (声楽)	金子 仁美 (パーカッション)
Germaine TAILLEFERRE (ピアノ)	Yvonne DESPORTES (室内楽)

2) 学内の、[学生による演奏会] において、女性作曲家の作品が演奏されたことがありますか。

スイス：1校

Alma MAHLER (室内楽、声楽)	Isabel MUNDRY (室内楽)
Annette SCHMUCKI (室内楽)	Natalia SIDLER (室内楽)
Barbara STROZZI (声楽)	Olga NEUWIRTH (室内楽)
Clara SCHUMANN (室内楽、声楽)	Ruth CRAWFORD SEEGER (声楽)
Fanny MENDELSSOHN HENSEL (室内楽)	Sofia GUBAYDULINA (室内楽)
Grażyna BACEWICZ (室内楽)	Younghi PUGH-PAAN (室内楽)
Galina USTVOLSKAYA (室内楽)	

フランス：1校

Betsy JOLAS

ドイツ：3校

Adrana HÖLSZKY (室内楽)	Isabel MUNDRY (室内楽)
----------------------	---------------------

Annea LOCKWOOD, (打楽器)	Kaija SAARIAHO (室内楽、声楽)
Babette KOBLENZ (室内楽)	Katia TCHANBERDJI (室内楽オペラ)
Christine BOLL (アコーデオン)	安倍 圭子 (マリンバ)
Clara SCHUMANN (ピアノ、声楽)	久保 摩耶子 (室内楽)
Edith CANAT DE CHIZY (ヴァイオリン)	Olga NEUWIRH (サックス)
Elena MENDOZA-LOPEZ (室内楽)	Rachel GALINNE (室内楽)
Eun-Hwa CHO (合唱付き室内楽、ピアノ、アコーデオン、管楽器、打楽器)	Rabeca CLARKE (ヴァイオリン、室内楽)
Franghiz ALI-ZADEH (室内楽)	Renate BIRNSTEIN (室内楽)
Germaine TAILLEFERRE (ハープ)	Ruth ZECHLIN (室内楽)
Grażyna BACEWICZ (ピオラ)	Sinem ALTAN (ハープ)
Henriette RENIÉ (ハープ)	Violeta DINESEN (室内楽)
Irina EMELIANTSEVA (ピアノ)	Younghi PAGH-PAAN (室内楽)
その他	Sofia GALINNE (室内楽、アコーデオン、チェロ、トランペット)

ハンガリー：1校

Alexina LOUIE (ピアノ)	Ruta WATSON HENDERSON (ピアノ)
Mary GARDINER (ピアノ)	Violet ARCHER (ピアノ)
Nancy TELFER (声楽)	

イギリス：1校

Barbara STROZZI (声楽)	Elisabeth JACQUET DE LA GUERRE (声楽)
Francesca CACCINI (声楽)	

アメリカ：7校

Adaline SHEPHERD	Laurel LITTRELL
Amy BEACH (声楽、室内楽)	Libby LARSEN (声楽、室内楽)
Augusta Reed THOMAS (室内楽)	Lili BOULANGER (声楽)
Barbara STROZZI (ハープシコード & 声楽)	Lori LAITMAN
Cécile CHAMINADE (ピアノ、声楽、フルート)	Ludith Lang ZAINMANT (フルード)
Charis Bean DUKE (声楽)	安倍 圭子 (マリンバ)
Cheryl GROSSO (パーカッション)	Marianne von Martinez
Clara SCHUMANN (ピアノ協奏曲)	Marion BAUER (ピオラ、その他)
Cynthia BARLOW (マリンバ)	May AUFDERHEIDE
Elisabeth JACQUET DE LA GUERRE	Nancy Laird CHANCE (サックス)
(ハープシコード)	Pamela DECKER
	Pauline VIARDOT (声楽)

Emma Lou DIEMER (声楽)	Rebecca CLARKE (ピオラ)
Fanny MENDELSSOHN HENSEL (声楽)	Sung-chen YI (室内楽)
Irene GIBLIN	Ruth CRAWFORD SEEGER (ピアノ、フルート)
Joan TOWER (クラリネット、室内楽)	フルート)
Thea MUSGRAVE (室内楽)	その他多数

日本：5校

Cécile CHAMINADE (ピアノ、フルート)	中澤 道子 (マリンバ・アンサンブル)
Clara SCHUMANN (ピアノ、声楽)	Jeanine RUEFF (サックス・アンサンブル)
Sharon SMITH (マリンバ協奏曲)	木下 牧子 (重唱)
三上 直子 (室内楽)	浅井 梨愛 (声楽)
Fanny MENDELSSOHN HENSEL	安倍 圭子 (マリンバ・アンサンブル)
	(ピアノ)

3) 学内の、[先生による演奏会] において、女性作曲家の作品が演奏されたことがありますか。

スイス：1校

多数の作曲家の作品

ドイツ：3校

Adriana HÖLSZKY (室内楽)	Fanny MENDELSSOHN HENSEL (声楽)
Babette KOBLENZ (室内楽)	Galina USTVOLSKAJA (チェロ)
Claslotte SEITHES (室内楽)	Sofia GUBAIDULINA (室内楽)
Cécile CHAMINADE (フルード、ピアノ)	Katia TCHANBERDJI (室内楽オペラ)
Clara SCHUMANN (ピアノ、声楽)	

イギリス：1校

Lili BOULANGER (ヴァイオリン)	Eleanor ALBERGA (ヴァイオリン)
Amy BEACH (ヴァイオリン)	Grażyna BACEWICZ (ヴァイオリン)
Clara SCHUMANN (ヴァイオリン)	

アメリカ：7校

内藤 明美 (マリンバ)	Katherine HOOVER (フルード、室内楽)
Alma MAHLER (声楽)	安倍 圭子 (マリンバ)
Amy BEACH (声楽)	Libby LARSEN (声楽)
Anne LEBARON (ヴァイオリン)	Lili BOULANGER (声楽)

Barbara STROZZI (声楽)
Clara SCHUMANN (ピアノ、声楽、
室内楽)
Deborah GREENBLATT
Dorothy HINDMAN (サックス)
Fanny MENDELSSOHN HENSEL (声楽)
Frorence PRICE (ピアノ)
Germaine TAILLEFERRE (声楽)
その他多数の作曲家の作品

Marta PTASZYNSKA (パーカッション)
Pauline VIARDOT-GARCIA (声楽)
Liza LEHMANN (声楽)
Rebecca CLARKE (声楽)
Ruth CRAWFORD SEEGER (ピアノ)
Thea MUSGRAVE (声楽)
Valerie CAPERS (ピアノ)
Janice GITECK (ビオラ & パーカッション)

日本：6校

Alma MAHLER (声楽)
Cécile CHAMINADE (フルート)
Clara SCHUMANN (ピアノ、声楽、
オルガン、室内楽)
Fanny MENDELSSOHN HENSEL
(ピアノ、重唱、オルガン)

Grażyna BACEWICZ (ピアノ)
三宅 榛名 (ピアノ)
Tekla BADARZEWSKA BARANOWSKA
峰村 澄子 (尺八、室内楽)
田頭 優子 (声楽、管楽器)

4) 学外の、[公開演奏会] において、女性作曲家の作品を演奏することがありますか。

スイス：1校

時々演奏する。

Alma MAHLER (声楽)
Clara SCHUMANN (声楽)

Grażyna BACEWICZ (室内楽)
Sofiya GUBAYDULINA (室内楽)

フランス：1校

時々演奏する。

ドイツ：3校

よく演奏する。(2校)

時々演奏する。(1校)

1年に約200回の頻度でコンサートが行われている。いくつかの曲は何度も演奏されているが、女性作曲家作品の演奏頻度は全体の作品の25%と見なすことが出来る。

その中の大部分はソロやデュオの作品。

オーストリア：1校

よく演奏する。

Isabella LEONARDA (ヴァイオリン)	Clara SCHUMANN (室内楽)
Sophia DUSSEK (フルート&ピアノ)	Nadja BOULANGER (声楽)
Elisabeth JACQUET DE LA GUERRE (クラブサン)	Jolana SAIDLOVÁ (ピアノ) その他
Anna Amalia von Preußen (フルート)	

ハンガリー：1校

時々演奏する。

Timea DRAGONY (声楽)	Amy BEACH (声楽)
Krisztina MEGVERI (声楽)	Erzsébet SZÖNYI (声楽)

アメリカ：7校

よく演奏する。(1校)

たまに演奏する。(1校)

Augusta Reed THOMAS (室内楽)
Barbara BUEHLMAN (吹奏楽)
Chen CHIN-CHIN (ビブラフォン)
Cindy MCTEE (吹奏楽)
Clara SCHUMANN (声楽)
Edie HILL (合唱)
Florence PRICE
Valerie CAPERS
Joan TOWER (吹奏楽、室内楽)
Julia WOLFE (室内楽)

時々演奏する。(4校)

全く演奏しない。(1校)

安倍 圭子 (吹奏楽)
Libby LARSEN
(クラリネット&パーカッション)
Maria SCHNEIDER (ジャズ)
Marilyn HARRIS
(トランペット&パーカッション)
Nancy GALBRAITH (吹奏楽)
Marta PTASZYNSKA (マリンバ)
Thea MUSGRAVE (室内楽)
Sung-chen YI (室内楽)

日本：11校

よく演奏する。(1校)

たまに演奏する。(6校)

Caria BLEY (ジャズ)
Cécile CHAMINADE (フルート)
新井 千悦子 (吹奏楽)
Clara SCHUMANN (ピアノ、オルガン、
声楽、ヴァイオリン、室内楽)
安倍 圭子 (マリンバ)
堀 悦子 (フルート・アンサンブル)

時々演奏する。(2校)

全く演奏しない。(2校)

木下 牧子 (声楽、合唱)
Mel-BONIS (フルート)
高嶋 みどり (合唱)
中澤 道子 (吹奏楽、ユーフォニウムアン
サンブル)
田頭 優子 (声楽、管楽器)
大石 美香 (吹奏楽)

Fanny MENDELSSOHN HENSEL	Tekla BADARZEWSKA (ピアノ)
	(オルガン) Teresa CARRENÖ (ピアノ)
Germaine TAILLEFERRE (ピアノ)	原 嘉壽子 (オペラ)
三宅 榛名 (ピアノ)	

5)[西洋音楽史のテキスト]の中に、女性作曲家の名前が書かれていますか。

スイス：1校

数名書かれている。(それぞれの名前の明記なし)

フランス：1校

Hildegard von Bingen

ドイツ：2校

Clara SCHUMANN	Lili BOULANGER
Fanny MENDELSSOHN HENSEL	Sofia GUBAIDULINA

・テキストには、現在知られている女性作曲家はほとんど全部が記載されている。
(1校)

イギリス：1校

Amy BEACH	Elizabeth LUTYENS
Barbara STROZZI	Elizabeth MACONCHY
Clara SCHUMANN	Francesca CACCINI
Eleanor ALBERGA	Grażyna BACEWICZ
Elisabeth JACQUETDE LA GUERRE	Lili BOULANGER

アメリカ：8校

Amy BEACH	Joan LA BARBARA
Ann SILSBEE	Laurie ANDERSON
Barbara STROZZI	Lili BOULANGER
Cathy BERBARIAN	Maria SZYMANOWSKA
Cécile CHAMINADE	Nadia BOULANGER
Clara SCHUMANN	Pauline OLIVEROS
Elisabeth JACQUETDE LA GUERRE	Pauline VIARDOT
Ellen Taaffe ZWILICH	Robin HOLLOWAY
Fanny MENDELSSOHN HENSEL	Ruth CRAWFORD SEEGER
Francesca CACCINI	Ruth SCHONTHAL

Germaine TAILLEFERRE

Grażyna BACEWICZ

Hildegard of Bingen

その他

- ・テキストには、現在知られている女性作曲家はほとんど全部が記載されている。
(1校)

日本：9校

Agathe GRØNDAHL

Amy BEACH

Augusta HOLMES

Tekla BADARZEWSKA BARANOWSKA

Barbara STROZZI

Cécile CHAMINADE

Clara SCHUMANN

Ethel SMYTH

Fanny MENDELSSOHN HENSEL

Franghiz ALI-ZADEH

Germaine TAILLEFERRE

Sofia GUBAYDULINA

Teresa CARRENÕ

Thea MUSGRAVE

Henriette RENIÉ

Hildegard von Bingen

Lili BOULANGER

Louise FARRENC

Pauline VIARDOT

Rebecca CLARKE

SIRMEN LOMBARDINI

Mel-Bonis

LILI'UOKALANI, Queen of Hawaii

Consuelo VELÁZQUEZ

- ・「西洋音楽史」という名称の科目だけでなく、「音楽文化論」「クラシック音楽特論」「リートオラトリオ研究」「ピアノ・リテラチュア」などの名称の科目も含まれる。
- ・大学院の入試でクララ・シューマンや女性音楽家について出題したことがある。
(1校)
- ・テキストには、現在知られている女性作曲家はほとんど全部が記載されている。
(1校)

2.2.2 文章による回答。

アンケートの形式には記入せず、文章にて返事が来た所も多かった。その中のいくつかを紹介する。

ドイツ：9校

- ・女性作曲家の作品も、全く区別なく、ごく一般的に演奏しています。
 - ・年間340回ほどの演奏会（試験も演奏会形式）があり、調べるのは困難です。女性作曲家の作品は試験や演奏会で時々演奏されており、特に珍しいことはありません。
 - ・演奏事務部門に依頼しました。そちらからの返事を待って下さい。
- その他

スイス：2校

- ・ Frauen Musik Forum Schweiz (女性音楽家フォーラム・スイス)を紹介。
- ・試験の曲目の記録を残していないので、回答できません。

フランス：2校

- ・ 1994年～2002年に作成された、作曲専攻生による優秀作品のCD計12枚、およびその中に含まれる女子学生の紹介を送って下さる。
- ・女性作曲家を紹介。

ルクセンブルグ：1校

- ・女性作曲家の作品は試験や演奏会で時々演奏されており、特に珍しいことはありません。

フィンランド：1校

- ・残念ですがお答えするための資料がありません。

イギリス：2校

- ・女性作曲家の作品は学内で定期的に演奏されています。演奏会の回数が多く、調べるのは困難です。
- ・その他

アメリカ：9校

- ・大変興味深い研究ですが、資料を調べるのが困難です。
- ・女性作曲家協会を紹介。
- ・夏期休暇中のため、調べられません。

カナダ：4校

- ・大変興味深い研究ですが、資料を調べるのが困難です。
- その他

日本：1校

- ・夏期休暇中のため、調べられません。

2.3 アンケートに記入された女性作曲家リスト⁽³⁾

「表記法」

- ・氏名の表記は音楽事典、人名事典などに合わせ姓(大文字)名(小文字)とする。
- ・ [] 補足、[neé] 旧姓、() 洗礼名・通称等 * 不詳

姓 名	生 没 年	出 身 国	記 入 回 数
ABE Keiko [安倍 圭子]	(1937-)	日本	8
ALBERGA, Eleanor	(1949-)	イギリス	2
ALI-ZADEH, Franghiz	(1947-)	アゼルバイジャン	4
ALTAN, Sinem	*	*	2
ANDERSON, Laurie	(1947-)	アメリカ	1
Anna Amalia von Preußen	(1723-1787)	ドイツ	1
ARAI Chieko [新井 千悦子]	*	日本	1
ARCHER(BALESTRETI), Violet	(1913-2000)	カナダ	1
ASAI Rie [浅井 梨愛]	*	日本	1
AUFDERHEIDE, May	(1888-1972)	アメリカ	2

BACEWICZ, Grażyna	(1909-1969)	ポーランド	9
BADARZEWSKA-BARANOWSKA, Tekla	(1834-1861)	ポーランド	3
BARLOW, Cynthia	*	*	1
BAUER, Marion Eugénie	(1982[1987]-)	アメリカ	1
BEACH[neé CHENEY], Anna Amy Marcy	(1867-1944)	アメリカ	14
BERBARIAN, Cathy	(1925-1983)	アメリカ	1
BIRSTEIN, Renate	(1946-)	ドイツ	1
BLEY [neé BORG], Caria	(1938-)	アメリカ	1
BOLL, Christine E.	(1931-)	ドイツ	2
BONIS, Melanie(Helene)[Mel-Bonis]	(1858-1937)	フランス	2
BOULANGER, Nadja(Juliette)	(1887-1979)	フランス	2
BOULANGER, (Marie-Juliette Olga) Lili	(1893-1918)	フランス	10
BUEHLMAN, Barbara	*	*	1
CACCINI, [RAFFAELLI;SIGNORINI-MALASPINA], Francesca	(1587-1638)	イタリア	4
CANAT DE CHIZY, Edith	(1950-)	フランス	2
CAPERS, Valerie Gail	(1935-)	アメリカ	2
CARRENÖ, Teresa	(1853-1917)	ベネズエラ	2
CHAMINADE, Cécile	(1857-1944)	フランス	18
CHANCE, Nancy Laird	(1931-)	アメリカ	1
CHEN, Chin-Chin	*	*	1
CHO, Eun-Hwa	*	*	2
CLARKE[FRISKIN], Rebecca(Thacher)	(1886-1979)	イギリス	5
CRAWFORD(SEEGER), Ruth (Porter)	(1901-1953)	アメリカ	9
DECKER, Pamela	*	*	2
DESSPORTES, Yvonne	(1907-1993)	フランス	1
DIEMER, Emma Lou	(1927-)	アメリカ	1
DINESCU-LUCACI, Violeta	(1953-)	ルーマニア	1
DRAGON, Timea	*	*	1
DUKE, Charis Bean	(1967-)	*	1
DUSSEK[neé CORRI], Sophia (Giustina)	(1775-1847)	イギリス	1
EMELIANTSEVA, Irina	*	*	2
FARRENC[neé DUMONT], (Jeanne-)Louise	(1804-1875)	フランス	4
FINZI, Graciane	(1945-)	フランス	1
GALBRAITH [neé, NANCY], Riddle	(1951-)	アメリカ	1
GALINNE(GLUCHOWICZ), Rachel	(1949-)	イスラエル	3
GARDINER, Mary	(1874-1967)	アメリカ	1
GIBLIN, Irene	(1888-1974)	アメリカ	2
GIRAUD, Suzanne	(1958-)	フランス	1
GITECK, Janice	(1946-)	アメリカ	1
GOTKOVSKI, Ida	(1933-)	フランス	1
GREENBLATT, Deborah	*	*	1
GRØNDAHL, Agathe Backer	(1847-1907)	ノルウェー	2
GROSSO, Cheryl	*	*	1
GUBAYDULINA[GUBAIDULINA], Sofiya Asgatovna	(1931-)	ロシア	9
HARA Kazuko [原 嘉壽子]	(1935-)	日本	1
HARRIS, Marilyn	*	*	1
HENSEL[neé MENDELSSOHN(Bartholdy)], Fanny(Cäcilie)	(1805-1847)	ドイツ	20
Hildegard of Bingen	(1098-1179)	ドイツ	5
HILL, Edie	*	アメリカ	1
HINDMAN, Dorothy	*	*	1
HOLLOWAY, Robin Greville	(1943-)	イギリス	1
HOLMES, Augusta	(1847-1903)	フランス	4
HÖLSZKY, Adriana	(1953-)	ルーマニア	4
HOOVER, Katherine	(1937-)	アメリカ	2
HORI Etuko [堀 悦子]	(1943-)	日本	1
JACQUET DE LA GUERRE, Elisabeth-Claude	(1665-1729)	フランス	5
JOLAS, Betsy	(1926-)	フランス	2
KANEKO Hitomi [金子 仁美]	*	日本	2

KATAYAMA Aoi [片山 あおい]	*	日本	1
KINOSITA Makiko [木下 牧子]	(1956-)	日本	4
KOBLENZ ,Babette	(1956-)	ドイツ	2
KOLB , Barbara	(1939-)	アメリカ	1
KUBO Mayako [久保 摩耶子]	(1947-)	日本	1
LA BARBARA [née LOTZ:SUBOTNICK],Joan	(1947-)	アメリカ	1
LAITMAN ,Lori	(1955-)	アメリカ	2
LARSEN[REECE], Libby [Elizabeth] (Brown)	(1950-)	アメリカ	8
LeBARON, (Alice) Anne	(1953-)	アメリカ	1
LEHMANN, Liza [Elizabeth]	(1862-1918)	イギリス	1
LEONARDA, Isabella [LEONARDI,Anna Isabella]	(1620-1704)	イタリア	1
LILI ' UOKALANI, Queen of Hawaii	(1838-1917)	ハワイ	1
LITTRELL, Laurel	*	*	2
LOCKWOOD, Annea	(1939-)	ニュージーランド	2
LOMBARDINI SIRMEN [SYRMEN],Maddelena Laura	(1745-1818)	イタリア	1
LOUIE, Alexina	(1949-)	カナダ	1
LUTYENS, (Agnes) Elisabeth	(1906-1983)	イギリス	2
MACONCHY, Elizabeth	(1907-1994)	イギリス	2
MAHLER [né SCHINDLER], Alma Maria	(1879-1964)	オーストリア	5
Marianne von Martinez [Anna Katharina]	(1744-1812)	オーストリア	1
McTEE, Cindy	(1953-)	アメリカ	1
MEGVERI ,Krisztina	*	*	1
Mendelssohn(Bartholdy)[Hensel],Fanny 「 Hensel 」	既 出	既 出	
MENDOZA-LÓPEZ, Elena	*	*	2
MIKAMI Naoko [三上 直子]	*	日本	1
MINEMURA Sumiko [峰村 澄子]	(1941-)	日本	1
MIYAKE Haruna [三宅 榛名]	(1942-)	日本	1
MUNDRY ,Isabel	(1963-)	ドイツ	3
MUSGRAVE ,Thea	(1928-)	アメリカ	4
NAITOU Akemi [内藤 明美]	(1956-)	日本	1
NAKAZAWA Michiko [中澤 道子]	*	日本	2
NEUWIRTH ,Olga	(1968-)	オーストリア	3
OLIVEROS, Pauline	(1932-)	アメリカ	1
OŌISI Mika [大石 美香]	(1967-)	日本	1
OTA Sakurako [大田 桜子]	(1958-)	日本	1
PAGH-PAAN, Younghi	(1945-)	韓国	2
PRICE, Florence B.	(1953-)	アメリカ	2
PTASZYNSKA, Marta	(1943-)	ポーランド	2
RENIÉ, Henriette	(1875-1956)	フランス	3
RUEFF, Jeanine	(1922-)	フランス	1
SAARIAHO, Kaija	(1952-)	フィンランド	2
SAIDLOVÁ, Jolana	(1969-)	ハンガリー	1
SCHMUCKI, Annette	*	*	2
SCHNEIDER, Maria	*	*	1
SCHONTHAL, Ruth	(1924-)	アメリカ	1
SCHUMANN [née WIECK], Clara	(1819-1896)	ドイツ	39
SEEGER[née CRAWFORD], Ruth 「 CRAWFORD 」	既 出	既 出	
SEITHER, Charlotte	(1965-)	ドイツ	2
SHEPHERD, Adaline	(1883-1950)	アメリカ	2
SIDLER, Natalia	*	*	1
SILSBEE, Ann	(1930-)	アメリカ	1
SIRMEN LOMBARDINI, Maddelena Laura 「 LOMBARDINI 」	既 出	既 出	
SMITH, Sharon	*	*	1
SMYTH, Dame Ethel (Mary)	(1858-1944)	イギリス	2
STROZZI, Barbara	(1619-1677)	イタリア	9
SZÖNYI, Erzsébet [Elisabeth]	(1924-)	ハンガリー	1
SZYMANOWSKA, Maria Agata Wotowska	(1789-1831)	ポーランド	1
TAGASIRA Yuuko [田頭 優子]	(1957-)	日本	2

TAILLEFERRE, Germaine (Marcelle)	(1892-1983)	フランス	9
TAKASIMA Midori [高嶋 みどり]	(1954-)	日本	1
TALMA, Louise	(1906-)	アメリカ	1
TCHEMBERDJI, Katia	(1960-)	ロシア	2
TELFER[Lindsey], Nancy (Ellen)	(1950-)	カナダ	1
THOMAS, Augusta Reed	(1964-)	アメリカ	1
TOWER, Joan	(1938-)	アメリカ	3
USTVOL'SKAJA, Galina Ivanovna	(1919-)	ロシア	2
VELÁZQUEZ, Consuelo	(1920-)	メキシコ	1
VIARDOT[neé GARCIA],(Michelle Ferdinande) Pauline	(1821-1910)	ドイツ	8
WATSON HENDERSON, Ruth (Louise)	(1935-)	カナダ	1
WOLFE, Julia	(1958-)	アメリカ	1
YI, Sung-Chen	(1963-)	韓国	1
ZAINMONT, Judith Lang	(1945-)	アメリカ	2
ZECHLIN, Ruth	(1926-)	ドイツ	1
ZWILICH, Ellen Taaffe	(1939-)	アメリカ	2

計 139名

[協力]

国立音楽大学附属図書館 市川 啓子

2.4 アンケート集計:分析と傾向

2.4.1 問合せ先と、回答が送られて来た国別大学数

- ・アンケート送付にあたり文章を英文・独文・仏文に翻訳し、各国・地域に最も適していると思われる文章を用いた。
- ・アンケート送付はEメール及びレターメールで行った。

国名	問合せ先	回答率)	具体的回答	その他の回答
オーストリア	3	1 (33%)	1	0
ベルギー	3	0 (0%)	0	0
デンマーク	5	0 (0%)	0	0
フィンランド	1	1 (100%)	0	1
フランス	10	4 (40%)	2	2
ドイツ	22	13 (59%)	4	9
イギリス	13	3 (23%)	1	2
オランダ	7	0 (0%)	0	0
ハンガリー	2	1 (50%)	1	0
ルクセンブルク	2	1 (50%)	0	1
ノルウェー	4	0 (0%)	0	0
ポーランド	3	0 (0%)	0	0
スウェーデン	2	0 (0%)	0	0
スイス	5	3 (60%)	1	2
アメリカ	82	18 (22%)	9	9
カナダ	38	4 (11%)	0	4
日本	28	15 (54%)	14	1
計	230	64 (29%)	33	31

[分析と傾向]

- ・アメリカからの回答にはアンケート調査への関心や、協力的な姿勢を示す文面が多かった。しかし女性作曲家への認識や演奏状況は、地域や学校の規模によってかなり差があるように思われる。

- ・ドイツからの回答には、年間の演奏会の回数が200回から300回を数え、そのプログラムを調べるのが大変難しいという文章を添えたものが多かったが、女性作曲家の作品はごく当たり前のよう演奏しているという主旨がほとんどで、演奏会プログラムを送って下さったところもあった。
- ・オーストリア、スイス、ルクセンブルクの状況はドイツに近く、女性作曲家についてかなり詳しく書かれている西洋音楽史のテキストの同封もあった。

2.4.2 演奏形態の記入回答数

演奏形態	鍵盤楽器 (協奏曲、オルガン曲等含む)	声楽 (合唱、オペラ等含む)	管楽器 (協奏曲、吹奏楽等含む)	弦楽器 (協奏曲等含む)	打楽器 (協奏曲等含む)	室内楽
記入回数	61	77	50	26	26	68
			102			

[分析と傾向]

- ・音楽大学の学生数と教員数を専攻別に比較すると、ほとんどの大学で鍵盤楽器専攻の人数が最も多いが、女性作曲家の作品を取り上げる頻度は比較的少ない。その理由として鍵盤楽器の作品は非常に数が多く、新しいもの、または珍しい作品を扱う必要がない。単独での演奏や指導が中心であり、継承的な要素が強く、新しい物や珍しい物を取り入れる自由な雰囲気が薄い、などが考えられる。
- ・声楽作品がよく演奏される理由として 曲が短く取り組みやすい。 多人数による共同作業という場面では、新しい試みは新鮮味を与え、取り入れ易い。などが考えられる。
- ・管楽器と打楽器については、現代の作曲家の作品が多く演奏されている。その理由として、昔は管楽器や打楽器のソロ演奏の作品が少なく、近現代以降に楽器や演奏法の発達に伴い、ソロ演奏用の作品が数多く作られるようになった。それに伴い、現代女性作曲家の作品が演奏される頻度も多く、日本の女性作曲家の作品が欧米でも演奏されているのは注目に値する。

2.4.3 出生年区分別回答数

出生年区分	回答数
～1800年	10
1801年～1900年	24
1901年～	79
不詳	26

[分析と傾向]

- ・「1.女性作曲家の社会的背景の変遷」にみられるように、20世紀を迎えるまで女性に対する音楽教育や社会での活動の拘束は歴然としたものであった。その状況の中に於いても作品を残し、後世に認められている作曲家がいることも確かである。
- ・1900年以降女性も等しく音楽教育を受け、作曲家・作品ともに広く音楽界に活躍している方向性が伺える。
- ・アンケートには、音楽大学作曲専攻生の名前と作品の記入がいくつかあった。紙面の関係上今回は集計に加えていないが、その中には現在すでに音楽界で活躍している人がいる可

能性も考えられる。

- ・今回のアンケートに関し、当初 1900 年以前に出生した作曲家（いわゆる西洋音楽史の範囲内）について問い合わせるつもりであったが、作曲者の出生年を調べるという煩わしさを考え、特に出生年を限定しなかった。それに伴い現代作曲家の割合が大多数を占めたが、彼女達もこれからの音楽史を担う作曲家であり、将来へ向けての活躍を期待するものである。

2.4.4 よく取り上げられる作曲家ベスト7

今回のアンケートにおいて、具体的に記入された回数の多い名前を順に挙げる。

また、各質問項目に記入されたのべ回数を挙げる。

順	名前	生没年	出身国	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	計
1	Clara SCHUMANN	(1819-1896)	ドイツ	9	5	10	5	10	39
2	Fanny MENDELSSOHN HENSEL	(1805-1847)	ドイツ	4	5	5	1	5	20
3	Cécile CHAMINADE	(1857-1944)	フランス	7	4	2	1	4	18
4	Amy BEACH	(1867-1944)	アメリカ	1	3	2	1	7	14
5	Lili BOULANGER	(1893-1918)	フランス	0	1	2	1	6	10
6	Germaine TAILLEFERRE	(1892-1983)	フランス	2	1	1	1	4	9
#	Barbara STROZZI	(1619-1677)	イタリア	1	3	2	0	3	9
#	Grażyna BACEWICZ	(1909-1969)	ポーランド	2	2	2	1	2	9
#	Sofiya GUBAYDULINA	(1931-)	ロシア	4	1	1	1	2	9
#	Ruth CRAWFORD SEEGER	(1901-1953)	アメリカ	1	3	2	0	3	9
7	Keiko ABE	(1937-)	日本	2	3	1	2	0	8
#	Libby LARSEN	(1950-)	アメリカ	1	3	1	1	2	8
#	Pauline VIARDOT	(1821-1910)	ドイツ	1	2	1	0	4	8

[分析と傾向]

- ・年代で視るとロマン派の作曲家が上位を占め、作曲家と作品が共に知られるまでには時間が必要なことが伺える。しかし、ベスト7には、様々な時代、出身国の女性作曲家が挙げられており、大変興味深い。
- ・上位7位までは、現代の作曲家であっても、ほとんどの作曲家名が2回以上、西洋音楽史などのテキストに記述されているという結果が出ているが、日本の安倍圭子の名前が1度も出ていない。自国の現代作曲家に対する認識の仕方に、欧米と日本との間にずれが感じられるのではないだろうか。

結び

2003年4月、ルクセンブルクの音楽学者ダニエル・ロスター（Daniëlle Roster）女史と会える機会を得た。その折、ヨーロッパの音楽大学における女性作曲家作品の演奏状況を尋ねたところ、様々な演奏形態によって、ごく当たり前の様に演奏されているという答えが返ってきた。私の専門であるピアノに関して述べると、日本の音楽大学においては、女性作曲家の作品が試験や演奏会で取り上げられることはごく稀であり、珍しい特別な存在という認識ではないかと思われる。女性作曲家作品の中には素晴らしい作品が数多くあるが、耳に触れる機会がごく少なく、評価を受ける段階にまで未だ達していないのではないだろうか。日本の、そして欧米の音楽大学での現状は如何なるものか、アンケート調査を試みた。アンケー

トの結果、私の予想を上回る数多くの女性作曲家の具体名が挙げられ、少しずつではあるが、着実に認知されつつある現状を把握することが出来た。アンケート調査を依頼した音楽大学は世界の中の一部であり、回答を送って頂いた音楽大学と、そして直接記入に携わって頂いた音楽大学関係者はごく一握りである。その一握りの回答から 139 名にのぼる具体名が挙げられたことは大変興味深い。この 139 名以外の当然列挙されるべき名前が、たまたま記入されていないことも当然考えられ得る。また、ピアノ以外の演奏形態では、Cécile CHAMINADE のフルート作品や安倍圭子のパーカッション作品など、日本においてもよく演奏されており、女性作曲家作品の認知に関する日本の今後の方向性が見られたように思う。このアンケート調査の結果を参考に、音楽大学のみならず広く音楽界において多くの人達が女性作曲家の作品にも目を向け、素晴らしい作品を演奏して下さることを望むものである。

今回のアンケート調査にあたり、日本および欧米の数多くの方々にご協力を頂いた。心から感謝を申し上げたい。

[参考文献]

- (1) エヴァ・リーガー、『音楽史の中の女たち』思索社、1985 年。
- (2) 1. "Musik nach 1999/2000 Daten und Fakten zum Musikleben in Deutschland"
Gustav Bosse Verlag Bärenreiter-Verlag,1999.
2. Ronald Cavaye、『音楽家のための留学ガイド 世界の音楽学校 332 校の紹介』芸術現代社、1994 年。
3. 『音楽大学学校案内 '03』音楽之友社、2002 年。

[典拠資料]

- (3) 1. "The New Grove dictionary of women composers" Ed. by Julie Anne Sadie and Rhian Samuel, Macmillan, 1994.
2. "International encyclopedia of women composers"Ed.By Aaron 1. Cohen. 2nd.ed, Books & Music, 1987.
3. "Komponistinnen von A-Z" Ed. by Olivier Antje, Tokkata,1988.
4. "Black women composers" Hildegard Pub., 1992.
5. 『日本の作曲家一覧』 信時裕子編、国立音楽大学附属図書館、1990.
6. 『国立音楽大学図書館典拠ファイル』